

カーコンカーリース「もろコミ」ご成約特典！

「カーコンカーリースもろコミ」では、ご成約特典としてご契約いただいた方に折りたたみ電動アシスト自転車、車載用防災セット「Refill Box24」やキズへこみ修理クーポンをプレゼントいたします。プランによりプレゼント内容がかわりますので、詳しくはもろコミHPでご確認ください。

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み **8,000円** (※) に含まれています。

さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。

※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

(※)



※9年カーリースの場合
ボーナス月加算あり

=



+



+



+



車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません

もろコミのお申込み・お問い合わせは

にんぎのくまが コミコミ

年中無休・24時間受付 **0120-29-5353**

カーコンカーリース

〒108-0075 東京都港区港南 2-11-19 大滝ビル



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任

このような言わば車戦国時代の中で日産自動車は、日産、ルノー、三菱自動車という資本関係を強化していこうという矢先に明るみに出た。カルロス・ゴーン氏の事件により、大きく出遅れることになるであろう。車社会が、資本提携を通して、グローバル化していくことの弱さを露呈した結果、やはり技術提携やメソッドの共有などが何よりも重要だということが明らかになってきた。そして、時代はより便利で簡素化を求めている。今年には秋に消費税が2%UPするが、その影響も気になる。日本政府は、自動車税の減税などで消費税UPの救済策を固めているが、恩恵を大きく受けられるのは1.0リッター以下の車になるようだ。このような変革期に、カーコンビニ倶楽部が大きなチャンスを迎えていることは言うまでもない。

の比率が先進国とは異なり、車はMaasとして存在していくであろう。現在日本でも行われているタイム・シェアカーや、複数オーナー制などが、より普及し、このことによって、車により社会基盤として水道や電気のように存在感を高めることになる。

さて、「新三国志」の主人公は、言わずもがなトヨタ自動車とタイムラー(ドイツ)、そしてゼネラルモーターズ(アメリカ)である。この3社は、他社よりも早くCASE革命に取り組み、2020年早々には、発展段階にある新モデルを登場させるであろう。

一方、コネクテッドカーの普及率は、近い将来ほぼ100%に近い状態となり、すべての車が高機能の通信端末と情報を共有して作動していることになるだろう。

例えば、完全自動運転車の普及率は6%。ハイブリッドやプラグイン、EVなどの電動車の普及率は40%。さらに、シェアリングの車の普及率は24%。これらが完全に普及するまで恐らくまだ20年から30年かかるだろう。

変化する新車社会

世界の自動車産業は、「新三国志」の時代を迎えた。これらの新しい自動車メーカーは、CASE革命の勝者が時代をリードすることになる。2030年に向けて、C(コネクテッド)、A(自動運転)、S(シェアリング)、E(電動化)、これら急速な技術革新をどのように各メーカーが受け入れ、応用し、ドライバーのために作り上げるかが鍵になる。したがって、特にここ数年から各自動車メーカーは、このCASEによる変化に対する投資が膨大な金額になっており、一説によると、数千億円の投資規模になるメーカーも現れている。問題の2030年に予想されるCASEの普及率は、実は私が予想しているよりも緩やかである。